

授業 科目名	整形外科学各論 Orthopedics	履修年次： 必修：理・作 2年	単位数： 1 単位 30 時間	担当教員名： 金子 徹 [リハビリテーション科医師] (研究室：仁戸名 2)	
		実務経験のある教員による授業科目			コード：RBB306
		〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力			
〔授業の到達目標及びテーマ〕					
整形外科学の個々の外傷・疾患の知識を、理学療法・作業療法と関連づけて修得することを目標とする。解剖学・生理学・病理学・運動学の知識を基礎として、整形外科学的診断・治療・合併症を理解し、専門用語を用いて、説明できることを目標とする。					
〔授業の概要〕					
運動器(骨・関節)の構造と機能を再確認しつつ、個々の運動器疾患の外傷・疾患の病態を理解する。整形外科の検査法、症候学、診断学(画像診断学を含む)治療法(保存的治療・観血的治療)合併症を理解することを目的とする。整形外科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。遠隔授業で行う。 キーワード：運動器、診断学、保存治療、手術療法、外傷学					
〔授業計画〕					
回数	日付	テ - マ	内 容		
第1回	10/7	脊椎の外傷・疾患 1	脊椎・脊髄の外傷(頸椎・胸椎・腰椎損傷, 脊髄損傷)		
第2回	10/21	脊椎の外傷・疾患 2	頸椎疾患(頸椎捻挫, 頸椎症等)		
第3回	10/28	脊椎の外傷・疾患 3	腰椎疾患(腰痛症, 腰部脊柱管狭窄症等)		
第4回	11/11	肩関節および上腕 1	肩・上腕の外傷、肩関節不安定症		
第5回	11/18	肩関節および上腕 2	肩関節の変性疾患、肩関節のスポーツ障害		
第6回	11/25	肘関節および前腕	肘・前腕の外傷、肘関節疾患		
第7回	12/2	手の疾患と外傷 1	手関節と手指の外傷		
第8回	12/9	手の疾患と外傷 2	手関節と手指の疾患		
第9回	12/16	股関節部および大腿 1	骨盤外傷, 股関節および大腿の外傷		
第10回	12/23	股関節部および大腿 2	股関節および大腿の疾患		
第11回	1/6	膝関節部および下腿 1	膝関節および下腿の外傷		
第12回	1/20	膝関節部および下腿 2	膝関節の疾患		
第13回	1/27	足の疾患と外傷	足関節と足部の外傷・疾患		
第14回	1/29	骨壊死症、切断	骨壊死性疾患・骨端症、四肢循環障害、四肢切断		
第15回	2/3	疼痛、スポーツ整形	慢性疼痛疾患、スポーツ整形外科		
履修条件	人体の構造、人体の機能、病理学、運動学の復習を並行して行うこと。				
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジユメの見直しを推奨。				
テキスト	「整形外科学テキスト 改訂第4版」高橋 邦泰編 南江堂刊				
参考書・参考資料等	「標準整形外科学 第14版」井樋 栄二編 医学書院刊 など				
学生に対する評価	定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により評価する。				

授業 科目名	精神神経科学総論 (Psychiatry: General remarks)	履修年次： 必修：理・作 2年	単位数： 1 単位 30 時間	担当教員名： 三浦伸義 [医師] (非常勤講師室)	
		実務経験のある教員による授業科目			コード：RBB222
		〔DP〕 実践に必要な知識 倫理観とプロフェッショナリズム 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕					
本授業では、就職した場合に必要な知識を得ることを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。					
1 日本の精神医療の歴史を学び、現在の日本が直面している様々なメンタルヘルスの問題について理解するようになる。					
2 精神医学領域の基本的な症状、検査法、診断基準について学び、かつ基本的な治療法について理解し、説明できるようになる。					
3 精神保健福祉法について、その概略を理解する。かつ法の精神に基づき、現代日本の精神医療、精神保健に関連する分野で各職種が果たしている役割を実感する。					
〔授業の概要〕					
精神神経科学総論は以下の項目を系統的に講義する。現在先進国で主流となっている生物学的精神医学に立脚しつつ、精神現象を生物・心理・社会・倫理的な観点から複眼的に理解できるようにする。本授業は三浦伸義が担当する。精神科医師実務経験により、精神神経科学の講義および精神医療に関する学習の支援を行う。					
キーワード：精神保健、精神障害、精神保健福祉法、向精神薬、精神療法					
〔授業計画〕					
回数	日付	テーマ	内 容		
第1回	4/12	ガイダンス	履修の準備、受講に関する注意事項など		
第2回	4/12	精神医療の必要性	精神医学・精神医療の基礎		
第3回	4/26	精神医学の歴史	日本あるいは世界における精神医科学の変遷		
第4回	4/26	〃	〃		
第5回	5/17	精神医学の現状	世界標準の診断基準、および症候、検査について		
第6回	5/17	〃	〃		
第7回	5/31	精神疾患各論	精神疾患それぞれの特徴や問題		
第8回	5/31	〃	〃		
第9回	6/14	精神医療を取り巻く法律	精神保健福祉法とその関連法について		
第10回	6/14	〃	〃		
第11回	6/28	精神疾患の治療	精神疾患の治療法（薬物や精神療法など）の概要		
第12回	6/28	〃	〃		
第13回	7/12	精神医療と社会の関係	社会におけるメンタルヘルスの諸問題について		
第14回	7/12	〃	〃		
第15回	7/26	まとめ	授業全体を通じたまとめ		
履修条件	特になし				
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。				
テキスト	精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 第6版				
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。				
学生に対する評価	定期試験（50％）、課題（36％）、日ごろの学習態度（14％）により、総合的に評価する。				

授業 科目名	精神神経科学各論 (Clinical Psychiatry)	履修年次： 必修：作2年 選択：理2年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名： 杉澤 淳子 [精神神経科医師] (非常勤講師室)
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] コミュニケーション能力 実践に必要な知識 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法・理学療法の対象となる精神障害について、症状、疫学、原因と背景、診断、治療や支援の概要を理解し、実務上必要となる基礎知識を習得する。				
〔授業の概要〕 精神障害は、現代社会の臨床現場で遭遇する頻度の高い疾患である。講義および演習形式により、理学療法、作業療法を行うにあたって、必要な、それぞれの精神障害についての疾患特異的な各論的知識を習得する。統合失調症、うつ病・双極性障害などの気分障害、不安障害、身体表現性障害、適応障害、摂食障害、認知症、物質依存、パーソナリティ障害などの代表的な精神疾患の診断、評価方法、治療（薬物療法、認知行動療法など）の概要について、理解することを目的とする。				
キーワード：精神、発達、心理、福祉、神経				
〔授業計画〕				
	回数	テーマ	内容	
第1回	10/2	精神医学総論1	精神科概要、外来・入院治療の現状	
第2回	10/9	精神医学総論2	精神科概要、外来・入院治療の現状	
第3回	10/16	精神医学総論3	精神科概要、外来・入院治療の現状	
第4回	10/23	特別講義(理学療法士)	理学療法士による現場の声	
第5回	10/30	特別講義(作業療法士)	作業療法士による現場の声	
第6回	11/6	器質性精神病1	アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症	
第7回	11/13	器質性精神病2	せん妄、身体疾患による精神症状	
第8回	11/20	気分障害	うつ病、躁うつ病	
第9回	11/27	統合失調症	統合失調症	
第10回	12/4	神経症1	不安障害、パニック障害、強迫性障害	
第11回	12/11	神経症2	急性ストレス障害、PTSD、適応障害、身体表現性障害、解離性障害	
第12回	12/18	人格・行動の異常1	境界型人格障害、自己愛性人格障害など	
第13回	1/8	人格・行動の異常2	摂食障害	
第14回	1/15	発達・知的障害1	大人と子供の精神科的な違い	
第15回	1/22	発達・知的障害2	精神遅滞、自閉症スペクトラム障害、ADHD等	
履修条件		特になし		
予習・復習		指定しない。授業の中で、適宜指示する		
テキスト		指定しない、授業プリントを配布する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験80%、学習態度20%		

授業 科目名	臨床薬理学 (Clinical Pharmacology)	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位 15時間	担当教員名: 山本達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)	
		実務経験のある教員による授業科目			コード:RBB224
		〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法士・作業療法士を中心とした保健医療専門職が習得すべき薬理学の知識、日常臨床でよく使われる薬剤についての作用機序、対象疾患、副作用について習得することを目的とする。					
〔授業の概要〕 薬理学総論から始め、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、血液系、中枢神経系に作用する薬剤について、日常臨床で頻繁に用いられる薬剤と中心に作用機序、対象疾患、副作用を説明する。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいた講義を行う。					
キーワード: 循環器系薬剤、消化器系薬剤、腎・泌尿器系薬剤、血液系薬剤、中枢神経系薬剤					
〔授業計画〕					
回数	日付	テーマ	内容		
第1回	10/2	薬理学総論	薬力学、薬物動態学		
第2回	10/9	循環器系	降圧剤、抗不整脈薬		
第3回	10/16	消化器系、代謝・内分泌	消化性潰瘍治療薬、下剤、糖尿病治療薬		
第4回	10/23	腎・泌尿器系	利尿薬、過活動膀胱治療薬、前立腺肥大症治療薬		
第5回	10/30	血液系	抗血小板薬、抗凝固薬、貧血治療薬		
第6回	11/6	中枢神経系	抗精神病薬、睡眠薬、抗てんかん薬、 抗パーキンソン病薬		
第7回	11/13	抗炎症薬	NSAID、ステロイド、抗アレルギー薬		
第8回 前半 45分	11/20	まとめ	授業全体のまとめ		
履修条件	生化学総論を履修していることが望ましい。				
予習・復習	授業プリント、教科書の予習・復習をすること。				
テキスト	休み時間の薬理学 第3版 丸山敬 著 講談社				
参考書・参考資料等	はじめの一步のイラスト薬理学 石井邦雄 著 羊土社				
学生に対する評価	定期試験 90%、学習態度 10%				

授業 科目名	老年科学 (Gerontology)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
		必修:理・作3年	1単位 30時間	
			コード: RBB225	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>高齢者の身体機能と疾患について、専門学会等による老年病についての研究成果などを活用しながら、病態の特性をふまえた観点から教授する。授業では老化に伴った臓器や身体機能の変化とその失調について、さらに高齢者のリハビリテーション医療における問題点と対策を学修する。目標としては</p> <p>1 高齢者に特有の生理的变化や頻度の高い疾患を挙げ、概要を説明できる</p> <p>2 高齢者の理学・作業療法を計画し、それを遂行する課程でどのような事態が想定され、どのように問題を解決すべきかについて概要を説明できる。</p>				
〔授業の概要〕				
<p>老化の意味、高齢者の生理、頻度の多い症候・病態の概要について講義を行う。具体的な症例を提示して教科書的な知識を臨床にどう活かすかについても学修させる。次回の授業時には小テストを行い、教科書知識の確認・修正・定着を促し、文献からはば広く、深い知識を得る重要性についても自得させる。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義する。</p> <p>キーワード: 老化、加齢、老年病、サルコペニア、フレイル</p>				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/10	老年病総論	高齢化社会の現状と今後の課題	
第2回	4/17	加齢とは	加齢による身体機能変化、フレイル、サルコペニア	
第3回	4/24	免疫系の老化と感染症	加齢による生体防御機構の変化と感染症 誤嚥性肺炎	
第4回	5/1	呼吸器系の老化と疾患	高齢者の非感染性呼吸器疾患	
第5回	5/8	循環器系の老化と疾患	高齢者の心・血管病変、動脈硬化	
第6回	5/15	代謝・内分泌系の老化と疾患	高齢者の糖尿病・脂質異常、内分泌異常	
第7回	5/22	消化器系の老化と疾患 1	高齢者の消化器疾患	
第8回	5/29	消化器系の老化と疾患 2	高齢者の便秘	
第9回	6/5	腎泌尿器系の老化と疾患 1	高齢者の腎泌尿器疾患	
第10回	6/12	腎泌尿器系の老化と疾患 2	高齢者の排泄障害	
第11回	6/19	神経・感覚器系の老化と疾患 1	パーキンソン病診療の最前線	
第12回	6/26	神経・感覚器系の老化と疾患 2	パーキンソン症候群と脊髄小脳変性症	
第13回	7/3	血液系の老化と疾患	高齢者の血液内科疾患	
第14回	7/10	自己免疫疾患	高齢者の自己免疫疾患	
第15回	7/17	まとめ	全体のまとめ	
履修条件	内科学総論・各論、脳神経内科学総論・各論を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習:教科書の該当部分を熟読 復習:配布プリントと教科書内容の対応確認			
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第4版) 医学書院			
参考書・参考資料等	特になし。			
学生に対する評価	定期試験 90%, 学習態度 10%			

授業 科目名	小児科学 (Pediatrics)	履修年次： 必修：理・作3年	単位数： 1単位 15時間	担当教員名： 高柳 正樹[医師] (非常勤講師室)
		実務経験のある教員による授業科目	コード：RBB226	
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム、 実践に必要な知識、 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、療法士として健康と病気の小児を扱うのに必要な小児科学の知識を習得することを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 臓器別小児科学各論 神経系の発達生物学と発達行動学 発達障害に関連する事項				
〔授業の概要〕 授業は講義形式でおこなわれる、小児科学概論には成長と発達の他の小児保健学が含まれる。小児科学各論には感染症が含まれる。神経系の授業には、脳性麻痺を含む行動発達障害が含まれる。小児科医師の実務経験により、小児科の講義に関する学習の支援をおこなう。				
キーワード：成長と発達				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/9	新生児疾患	新生児疾患について解説	
第2回	4/16	遺伝、奇形、先天代謝異常症	遺伝、遺伝子に関する問題を中心に解説	
第3回	4/23	神経、筋、骨系統疾患 1	小児リハに関連する疾患を中心に解説	
第4回	4/30	神経、筋、骨系統疾患 2	小児リハに関連する疾患を中心に解説	
第5回	5/7	小児感染症	小児感染症について解説	
第6回	5/14	呼吸器、循環器疾患	小児呼吸器疾患、循環器疾患を中心に解説	
第7回	5/21	消化器、内分泌疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第8回	5/28	アレルギー、血液疾患、腫瘍性疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第9回	6/4	腎・泌尿器、眼科・耳鼻科疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第10回	6/11	正常発育・発達およびその評価	正常小児発達とその評価について解説	
第11回	6/18	ASD、ADHDなどの発達障害	発達障害の解説	
第12回	6/25	原始反射、低緊張の評価	原始反射、姿勢反射の説明	
第13回	7/2	事故、虐待、小児救急疾患	小児救急疾患の理解と対応	
第14回	7/9	心身症、重症心身障害児(者)	心身症および重症心身障害児の解説	
第15回	7/16	予防接種、育児相談など小児保健	小児保健に関する問題点	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習：テキストにおける授業範囲を一回読む。授業当日配布された資料で復習			
テキスト	医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により、総合的に評価する			

授業 科目名	臨床医学概論 Outline of clinical medicine	履修年次: 必修:理・作3年	単位数: 1単位30時間	担当教員名: 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室:仁戸名9)
		実務経験のある教員による授業科目	コード:RBBB27	
〔DP〕 実践に必要な知識, 倫理観とプロフェッショナリズム, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、リハビリテーションを実施する際に理解しておくべき症状や病態について、脳神経内科 でよくみられる症候を題材として、診断から治療にいたるプロセスの習得を目標とする。 以下のテーマで講義・グループ学習・発表を進めていく。 突然発症の片麻痺、 緩徐進行性の物忘れ、 手指振戦・動作緩慢、 意識障害、 急速進行性の四 肢麻痺				
〔授業の概要〕 理学療法、作業療法を行う際によく見聞きする症候を題材に、その症候から考えるべき病態、疾患、 対処法について学習する。次に、グループ学習・発表を通じて、複数の症状を総合的にとらえる考え方 を学ぶ。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義・演習を行う。				
キーワード: 臨床医学、症候、病態、診断、治療				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ マ	内 容	
第1回	4/10	突然発症の片麻痺(1)	講義(脳血管障害)	
第2回	4/17	突然発症の片麻痺(2)	グループ学習・発表	
第3回	4/24	突然発症の片麻痺(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
第4回	5/1	緩徐進行性の物忘れ(1)	講義(認知症)	
第5回	5/8	緩徐進行性の物忘れ(2)	グループ学習・発表	
第6回	5/15	緩徐進行性の物忘れ(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
第7回	5/22	手指振戦・動作緩慢(1)	講義(パーキンソン病、パーキンソン症候群)	
第8回	5/29	手指振戦・動作緩慢(2)	グループ学習・発表	
第9回	6/5	手指振戦・動作緩慢(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
第10回	6/12	意識障害(1)	講義(脳炎、てんかん)	
第11回	6/19	意識障害(2)	グループ学習・発表	
第12回	6/26	意識障害(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
第13回	7/3	急速進行性の四肢麻痺(1)	講義(脊髄炎、ギランバレー症候群)	
第14回	7/10	急速進行性の四肢麻痺(2)	グループ学習・発表	
第15回	7/17	急速進行性の四肢麻痺(3)	グループ学習・発表(課題レポート提出)	
履修条件	神経内科学総論・各論を履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(50%)、課題レポート(50%)			

授業 科目名	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	履修年次： 必修：理・作 3年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名： 金子 徹 [リハビリテ ーション科医師] (研究室：仁戸名 2)
		実務経験のある教員による授業科目		
		コード：RBB308		
〔DP〕 実践に必要な知識 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
リハビリテーション医学は多職種チームの協働により、対象となる患者や障害者に社会参加を実現するプロセスである。医療の分野では医学的リハビリテーションに関して必要な知識・技術に基づいたチームアプローチが求められる。下記の授業概要に記載した内容を理解できるようにする。				
〔授業の概要〕				
理学療法・作業療法に関わる医学的リハビリテーションにおけるチーム医療のあり方、リハビリテーション医療の流れ、各障害の捉え方と評価、治療の流れを学習し、リハビリテーション医学に関する代表的な疾患についてその障害特性の把握に基づいたリハビリテーション医療の展開を理解する。				
キーワード：疾患の理解、障害評価、チームアプローチ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/11	リハ医学総論	リハビリテーション医学概論、障害の理解	
第2回	4/18	運動器疾患のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第3回	4/25	関節リウマチのリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第4回	5/2	脳卒中のリハ医学(1)	脳卒中で生じる障害とその評価	
第5回	5/9	脳卒中のリハ医学(2)	脳卒中に対する急性期リハビリテーション	
第6回	5/16	脳卒中のリハ医学(3)	脳卒中に対する回復期・生活期リハビリテーション	
第7回	5/23	四肢切断後のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第8回	5/30	脊髄損傷のリハ医学(1)	脊髄損傷で生じる障害とその評価	
第9回	6/6	脊髄損傷のリハ医学(2)	脊髄損傷に対するリハビリテーション医療の展開	
第10回	6/20	末梢神経障害のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第11回	6/27	内部障害のリハ医学(1)	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第12回	7/4	内部障害のリハ医学(2)	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第13回	7/11	小児疾患のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第14回	7/18	神経難病のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第15回	7/25	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの展開	
履修条件	特になし			
予習・復習	教科書当該部分の予習、復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト	標準理学療法学・作業療法学 整形外科学第5版			
参考書・参考資料等	標準リハビリテーション医学(医学書院)			
学生に対する評価	定期試験(60%)、課題(10%)、日ごろの学習態度(30%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	作業療法概論 Outline of Occupational Therapy	履修年次: 必修: 作 1 年	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 岡村 太郎[作業療法士] (研究室: 仁戸名研究棟 8)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム コミュニケーション能力 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1. 作業療法における作業の概念(歴史を含む)について説明できる。 2. 作業療法を構成する各領域の専門性を説明できる。 3. 作業療法士になるための心構えと職業的アイデンティについて検討できる。				
〔授業の概要〕 作業療法における作業の概念から始まり、作業療法の歴史、作業療法を構成する各専門領域の概観を理解し、その領域における作業療法士に必要な知識と技術を系統的に学習する。本科目の目的は各領域の概要を理解し上で、作業療法士になるための心構えと職業的アイデンティについて理解し、作業療法を構成する各領域の専門性を説明できることとする。				
キーワード: 作業療法、歴史、ICF, 養成校				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回 第2回	4/10	作業療法の紹介 作業療法とは	作業療法士の活動の場を学習する。 作業療法とはどのような専門職か理解する。	
第3回 第4回	4/17	世界の作業療法 作業療法の歴史	海外の協会等の動画から作業療法について紹介する。 作業療法の歴史と作業療法の現状と課題について。 (学生 youtube 等から世界の作業療法の現状を紹介する。 WFOT 等各国の協会や大学の紹介動画を利用)	
第5回 第6回	4/24 (3.4.5)	作業療法の対象	作業療法の対象を障害の構造(ICF)を用いて理解する。	
第7回 第8回	5/1 3.4	作業療法の実際	作業療法の原理と理論、領域別作業療法、病期別作業療法、圏域別作業療法。	
第9回 第10回	5/8 3.4	作業療法の過程 作業療法部門の管理運営	作業療法の実際の流れを理解する。 職業人としての必要な倫理について理解する。	
第11回 第12回	5/15	作業療法士の養成 作業療法の研究	作業療法士の養成課程について学ぶ。	
第13回 第14回	5/22	身体障害分野・精神機能分野・ 発達過程分野・高齢期分野	グループで各症例について ICF 等の専門用語を使用し、まとめを発表する。	
第15回	6/5	千葉県における高齢期分野作 業療法の今後について	作業療法がなぜ必要になったのか? 歴史から検討できる 各自、どのような作業療法士になりたいか具体的に説明できる。(各分野のレポート提出)(試験)	
履修条件	特になし			
予習・復習	各自グループで発表準備(グループ学習と自ら学ぶ態度の育成)と提出、症例をまとめるレポートの提出、小テストの予習。			
テキスト	作業療法学概論(第3版)メジカルビュー社 ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改定版 中央法規出版			
参考書・参考資料等	プリント(事前学習用と筆記試験準備用等のプリントを配布します)			
学生に対する評価	課題レポート 10%, 試験 80% (60 点以上必要条件), 学習態度 10%により総合的に評価する。			

授業 科目名	作業療法管理学 Occupational Therapy Administration	履修年次: 必修:作3年	単位数: 2単位30時間	担当教員名: 岡村 太郎 [作業療法士] (研究室:仁戸名研究棟8)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 コミュニケーション能力 実践に必要な知識 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法士の専門職種としてのあり方や職場での倫理・管理の重要性の知識を習得する。				
〔授業の概要〕 作業療法士の勤務する職域や形態が多様になる中で、臨床実践での専門職種としてのあり方や職場での倫理の重要性を、実例を通じて知識を習得する。本科目は、一般的な個人・集団・地域の管理という狭義の職場管理に限らず、特に、専門職種としての生涯教育の重要性と職種の質の向上の理解を促し、自己啓発を継続する姿勢を身につけることを目的とする ----- キーワード: 管理, マネジメント, 組織化, リーダーシップ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1・2回	11/13	作業療法のマネジメント	マネジメントとマネジメントプロセス(PDCAサイクル)について	
第3・4回	11/20	組織の成り立ち・情報とマネジメント	組織について 組織の構成・部内の連携, 職種間連携の在り方	
第5・6回	11/27	医療サービス・医療安全のマネジメント	医療サービスと医療におけるリスクマネジメントについて	
第7・8回	12/4	作業療法業務のマネジメント	人・もの・制度と時間・情報・ストレス等について	
第9・10回	12/11	職場管理の実際	作業療法部門の業務管理について	
第11・12回	12/18	作業療法の役割と職域と職業倫理	作業療法の法律と定義, 作業療法士の職業倫理について	
第13・14回	1/8	作業療法士の取り巻く諸制度	医療保険制度, 介護保険制度, 障害者福祉制度, 地域包括ケアシステムについて	
第15回	1/15	作業療法臨床実習の管理と作業療法士のキャリア開発	臨床実習のマネジメントと日本作業療法協会やその他の職能団体と生涯教育について レポート課題の提出と課題に対するの質疑応答	
履修条件		3年時に進級していること		
予習・復習		管理に関する入門書を一冊読むこと。		
テキスト		作業療法管理学入門2版(大庭潤平編, 医歯薬出版株式会社)		
参考書・参考資料等		作業療法概論の教科書とプリント配布		
学生に対する評価		作業療法部門の管理に必要な書類等を資料としたレポート(80%)で評価を行う。出席など態度等(20%)を総合し評価をする。		

授業 科目名	作業療法基礎理論 Basic Theories in Occupational Therapy	履修年次: 選択：作 2 年	単位数: 1 単位 3 0 時間	担当教員名: 科目責任者 有川 真弓 (研究室：仁戸名研究棟 4) 宮本礼子 (非常勤講師), 岡村太郎, 松尾真輔 [作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 実践に必要な知識 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法は応用的学問であり、周辺領域の基礎的な理論体系の上に作業療法としての理論が成り立っている。ここでは、作業療法を学ぶ上で重要な基礎的な考え方について、論理的な展開についての知識を習得する。理論が将来臨床の場で遭遇する多種多様な課題に対処する作業療法専門職としての行為を導き、結果を予測して治療にあたらせてくれる羅針盤となることが期待される。				
〔授業の概要〕 本科目は、作業療法士の実務経験に基づき行われる講義と演習形式により、理論の役割と基本的構成について学び、欧米を含めて提唱されている作業療法理論について学修する。また、各理論による作業療法の対象や介入方法を検討し、具体的な問題解決法の論理的展開についての知識を習得する。				
キーワード：作業療法理論，ボトムアップアプローチ，トップダウンアプローチ，作業療法パラダイム				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	5/29 限	ガイダンス，総論	理論の目的・構成・役割，作業療法理論の歴史	有川真弓
第 2 回	6/3	生体力学モデル	理論	宮本礼子
第 3 回	4・5 限	同上	演習	宮本礼子
第 4 回	6/10 4・5	運動コントロールモデル/認知 - 知覚モデル	理論	宮本礼子
第 5 回	限	同上	演習	宮本礼子
第 6 回	6/12	感覚統合モデル	理論	有川真弓
第 7 回	6/12	同上	演習	有川真弓
第 8 回	6/19	認知能力障害モデル	理論	岡村太郎
第 9 回	6/19	同上	演習	岡村太郎
第 1 0 回	7/3	人間作業モデル	理論	有川真弓
第 1 1 回	7/3	同上	演習	有川真弓
第 1 2 回	7/10	カナダ作業遂行モデル	理論	有川真弓
第 1 3 回	7/10	同上	演習	有川真弓
第 1 4 回	7/17	生活行為向上マネジメント	理論・演習	松尾真輔
第 1 5 回	7/17	まとめ	まとめテスト	松尾真輔
履修条件	特になし			
予習・復習	予習は随時提示する。復習にはレジメの見直しを行うこと。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	適宜紹介する			
学生に対する評価	授業内でのまとめテスト (80%) 課題 (20%) により総合的に評価する。			

授業 科目名	作業療法研究法 Research Method of Occupational Therapy	履修年次： 必修：作3年	単位数： 1単位 15時間	担当教員名： 岡村 太郎 [作業療法士] (研究室：仁戸名研究棟 8)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 実践に必要な知識働 生涯にわたる探 究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、作業療法の研究に必要な知識とその応用を獲得することを目標に、以下の概要 で講義を進めていく				
〔授業の概要〕 作業療法の質的な向上に必要な研究手法について、基本的な知識を習得する。本科目は、研究 デザインの計画立案を立てることができる。学内での卒業研究及び卒後の研究活動に継続的に 資する、臨床実践現場での疑問を解決する姿勢を身につけることができる。 上記の技術の獲得により、作業療法の発展の理解を図ることを目的とする。 ----- キーワード：研究、研究デザイン、統計、執筆要綱				
〔授業計画〕 13：00 - 14：30 仁戸名キャンパス +6/6 10:45-12:15(情報処理室)				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第1回	5/30	作業療法における研 究	作業療法研究の概要について述べるができる。	
第2回	6/6	<u>文献検索方法につい て研究方法の歴史と デザインについて</u>	研究の歴史と研究デザインについて述べるができる。+ (予定)2 限目図書館の利用について述べるこ とができる	
第3回	6/13	研究デザイン・プロ トコル	研究デザインについて種類と例について、述べるこ とができる。	
第4回	6/20	文献収集など (統計の手法)	データ収集について(統計の手法について説明) 述 べるができる。	
第5回	6/27	データ収集の実際	データ収集実施について述べるができる。	
第6回	7/4	統計とその解釈につ いて	データから統計の実際について述べるができる。	
第7回	7/11	研究の発表と成果	論文の書き方と発表の仕方の概要(卒業研究の進め 方)について述べるができる。	
第8回	7/18	研究プロトコルの作 成(演習と発表)	テーマの発表ができる。	
履修条件		特になし		
予習・復習		t 検定と 2 検定はできるようになっていること。論文を 20 以上読む こと。研究デザインを偏りなくまとめ読むことができる。		
テキスト		数式不要! はめ込み統計学 EZR でできる保健医療統計これだけ 医学 書院		
参考書・参考資料等		作業療法士のための研究法入門 三和書店		
学生に対する評価		作業療法部門の管理に必要な書類等を資料としたレポート(80%)で評 価を行う。出席など態度等(20%)を総合し評価をする。		

授業 科目名	基礎作業学・演習 Occupational Science and Occupational Therapy	履修年次:	単位数:	担当教員名: 有川 真弓 [作業療法士] (研究室:仁戸名研究棟4)
		必修:作1年	1単位 30時間	
		実務経験のある教員による授業科目	コード: ROB102	
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム コミュニケーション能力 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法実践は、治療手段として「作業を用いて行われる」ことがその特徴になっている。ここでは、主に利用される作業活動について基本的な知識を習得する。				
〔授業の概要〕 本科目は、作業を「人の生活における作業活動」と「治療に用いられる作業活動」に分けて分析する。人が生活する上で生まれてから体験してきた生活行動と、治療手段として用いられる手工芸、レクリエーション等を身体的な運動・精神心理的な働き・道具や素材、環境の要因などの視点をもって分析的に理解し、演習形式にて、作業活動の理解を深める。作業療法士の実務経験に基づき講義と演習形式を実施する。				
キーワード: 作業と生活, ライフヒストリー, 作業バランス, 作業分析				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/17	基礎作業学概論	作業療法における作業の定義・分類	
第2回	4/17		基礎作業学の歴史	
第3回	4/24	生活を構成する作業1 ・演習	作業と生活・ライフサイクル	
第4回	4/24			
第5回	5/1	生活を構成する作業2 ・演習	ライフヒストリー・作業歴	
第6回	5/1			
第7回	5/8	生活を構成する作業3 ・演習	作業バランス、国際生活機能分類	
第8回	5/8			
第9回	5/15	作業分析総論、 作業分析各論1・演習	作業分析の目的、作業分析の種類、包括的作業分析	
第10回	5/15			
第11回	5/22	作業分析各論2・演習	包括的作業分析、運動分析	
第12回	5/22			
第13回	5/29	作業分析各論3・演習 まとめ	身体運動技能, 認知技能、心理社会技能と作業分析	
第14回	5/29		まとめ	
第15回	5/29			
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。			
テキスト	ひとと作業・作業活動(新版) 三輪書店			
参考書・参考資料等	作業って何だろう 作業科学入門、医歯薬出版			
学生に対する評価	授業内での小テスト・まとめてテスト(70%) レポート課題(30%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	基礎作業学実習 Practice of Therapeutic Occupational Activities	履修年次: 必修: 作1年	単位数: 1単位 45時間	担当教員名: 科目責任者 有川 真弓 (研究室: 仁戸名研究棟4) 松尾真輔、岡村太郎、成田悠哉 [作業療法士]	
		実務経験のある教員による授業科目			コード: ROB103
		〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム コミュニケーション能力 健康づくりの実践			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法に重要な各種の作業活動について、創作作業・レクリエーションなどの種目を実際に体験し、その作業工程を習得する。さらに、学生相互に構成要素を応用して作業活動を指導する過程を学ぶ。					
〔授業の概要〕 科目は、実習形式により、体験した作業活動を身につけ、その分析から、作業活動の意味や身体的・精神的な影響因子について理解を図る。また、工程の複雑な活動の体験や自己の表現等を通して作業活動が人間に与える身体的、精神的、心理的影響や効果について学習する。各種活動の基本的な技法を習得し、活動の運営方法を考察する。本科目は作業療法士の実務経験に基づき行われる。 キーワード: 手工芸, レクリエーション, アクティビティ, 創作作業, 作業分析					
〔授業計画〕					
回数	日付	テーマ	内容	担当	
第1回	10/2 4限	オリエンテーション	目標の理解、分析の方法、課題の確認	有川真弓	
第2・3回	10/9	革細工	企画・制作	岡村太郎	
第4・5回	10/16	革細工	企画・制作	岡村太郎	
第6・7回	10/23	園芸	企画・制作	有川真弓	
第8・9回	10/30	園芸	企画・制作	有川真弓	
第10・11回	11/6	籐細工	企画・制作	松尾真輔	
第12・13回	11/13	籐細工	企画・制作	松尾真輔	
第14・15回	11/20	レクリエーション	企画・制作	成田悠哉	
第16・17回	11/27	レクリエーション	企画・制作	成田悠哉	
第18・19回	12/4	レクリエーション	企画・制作	松尾真輔	
第20・21回	12/11	タイルモザイク	企画・制作	有川真弓	
第22・23回	12/18	作業活動の実際	事例を通じた学び	特別講師	
履修条件	特になし				
予習・復習	特になし。毎回のレポートを提出のこと				
テキスト	特になし				
参考書・参考資料等	作業 - その治療的応用 改訂第2版 協同医書出版社				
学生に対する評価	レポート課題(70%)、作品提出・学習態度(30%)を総合的に勘案して評価する。				

授業 科目名	作業療法ゼミナール Occupational Therapy Seminar ABCDEF ()	履修年次： 選択：作2年	単位数： 1単位15時間	担当教員名： 科目責任者 岡村 太郎（研究 室：仁戸名研究棟8）藤田，有川， 松尾，須藤，成田〔作業療法士〕		
		実務経験のある教員による授業科目			コード：ROB202-7	
〔DP〕 実践に必要な知識 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽						
〔授業の到達目標及びテーマ〕 (1) 卒業論文のテーマを見つけることができる (2) テーマに則して研究計画の目標を立てるために必要な知識を習得する (3) テーマに則して研究計画のプロトコル作成手順についての知識を習得する (4) 卒業研究の発表（プレゼンテーション）についての知識を習得する						
〔授業の概要〕 作業療法に必要な論理的思考による探究心を身につけるためには多くの研究論文に触れ、様々な研究手法についての基本的知識を修得する必要がある。本科目は、自ら興味関心があるテーマに即した専門的な知識や技術についてゼミ形式により理解を深める。早期に研究に触れることで、作業療法研究法、卒業研究に向けて学修意欲の向上を図る。						
キーワード：プロトコル作成，研究計画，研究テーマ						
〔授業計画〕						
回数	日付	テ	マ	内	容	担当
第1回	A-F(4/9)	第1回A-F(4/9)受講者全員にオリエンテーションを実施する。 作業療法ゼミナールA岡村太郎，成田悠哉，B藤田佳男，C有川真弓，D松尾真輔，E須藤崇行，F成田悠哉について は後期前半7コマ， は後期後半7コマに開催される。組み合わせで2テーマ受講可能である。				
第2回	(4/16)	A ，岡村研究テーマ（コード：ROB202）「高齢者・認知症の転倒について、認知能力障害モデルについて、作業療法学生の教育方法について」など				
第3回	(4/23)	B ，藤田研究テーマ（コード：ROB203）「高齢者・障害者の運動適性評価と指導法，有効視野，福祉用具の心理的効果」など				
第4回	(4/30)	C ，有川研究テーマ（コード：ROB204）「発達障害作業療法のクリニカルリーズニング，感覚統合療法の効果，特別支援教育における作業療法」など				
第5回	(5/7)	D ，松尾研究テーマ（コード：ROB205）「作業療法教育，生活行為向上マネジメント」など				
第6回	(5/14)	E ，須藤研究テーマ（コード：ROB206）「摂食・嚥下リハビリテーション，介護保険分野の作業療法」など				
第7回	(5/21)	F ，成田研究テーマ（コード：ROB207）「地域コミュニティの促進・高齢者介護予防，回復期の作業療法」など				
第8回	(5/28)	* 学生は、作業療法ゼミナールで興味ある教員（A,B,C,D,E,F）の研究テーマ等聴講の上，卒業論文の主担当教員を希望することができる。				
第9回	(6/4)	以上のことから，各講義の中より着想し，オリジナルな発想で卒業研究に向けたテーマを見つける準備ができる。				
第10回	(6/11)					
第11回	(6/18)					
第12回	(6/25)					
第13回	(7/2)					
第14回	(7/9)					
第15回	(7/16)					
履修条件		学生は，選択時，教員に直接訪ねても構わない。積極的な行動が望まれる。				
予習・復習		受講する担当教員の適宜指示に従うこと。				
テキスト		受講する担当教員と相談のこと。				
参考書・参考資料等		受講する担当教員より提示される。				
学生に対する評価		レポート課題（50%），学習態度（30%），テスト（20%）により，総合的に評価する。（学生評価については，履修登録前に各担当教員へ確認すること。）				

授業科目名	作業療法評価学総論 Occupational Therapy Evaluation ; General remarks	履修年次： 必修：作業1年	単位数： 1単位 15時間 コード：ROP101	担当教員名： 科目責任者 須藤 崇行 (研究室：東校舎2) 佐藤大介、有川真弓、松尾真輔 (登壇順)[作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法の開始から終了に至る過程において、評価の持つ位置づけと機能を知る。間接的評価に始まり、直接的評価との統合により問題点を抽出するという評価過程を理解する。またチーム医療における情報共有という評価の構造を理解する。これを踏まえ、身体障害、精神障害、発達障害などの作業療法の領域における具体的評価方法について、各々の専門分野における特性理解への導入を図る。				
〔授業の概要〕 何時どのように作業療法が開始され、終了するのか？作業療法を実施する際、対象者の全体像の把握は、最も重要な臨床過程である。ここでは、全体像を把握し、作業療法の計画立案、また作業療法の効果を振り返るための評価について、評価対象や評価結果の抽出、結果の表記などの基本的な知識を習得する。本科目は講義形式により、各対象領域での使用頻度の高い評価項目や評価手法を例に取り、評価方法の選択から問題点抽出、作業療法計画への流れの中で、全体像を構築する評価過程についての理解を図る。				
キーワード：記録、報告、観察、面接、検査、測定				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	11/28	作業療法評価	作業療法評価とは	須藤崇行
第2回	12/5	作業療法評価	作業療法評価の進め方	須藤崇行
第3回	12/12	作業療法評価	再評価と作業療法の効果判定	須藤崇行
第4回	12/19	作業療法評価	記録・報告の意義と特徴	須藤崇行
第5回	1/9	精神障害領域の評価法	精神機能・精神機能障害の評価方法	佐藤大介
第6回	1/23	発達障害領域の評価法	発達の評価方法、社会生活の評価法	有川真弓
第7回	1/30	身体障害領域の評価法	運動器・運動機能の評価方法	松尾真輔
第8回	2/6	身体障害領域の評価法	運動機能以外の身体機能の評価方法	松尾真輔
履修条件	特になし。			
予習・復習	連続講義では前回の講義内容の復習による次回との関連性の検討が予習となる。単発の場合は、講義内容の再確認による復習に重点を置くこと。			
テキスト	標準作業療法学 作業療法評価学 改訂第3版 能登真一編 医歯薬出版			
参考書・参考資料等	特に指定しない。担当者から講義の中で適宜、紹介する。			
学生に対する評価	定期試験（70%）、課題（20%）、学習態度（10%）により総合的に評価する。			

授業 科目名	身体作業療法評価学 Assessment & evaluation for physical Occupational Therapy	履修年次： 必修 作業 2 年	単位数： 1 単位：15 時間	担当教員名： 松尾真輔[作業療法士] (仁戸名研究室 3) 須藤崇行[作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目	コード：ROP201	
〔 DP 〕 実践に必要な知識				
〔 授業の到達目標及びテーマ 〕 この後に行われる予定の学内実習、並びに、臨床実習、及び、卒後の臨床実践を予想し、身体障害領域における臨床的特性を踏まえながら、客観的評価技法の実施により対象者の抱えている問題に関して、何が分かるのかについて必要とされる知識を中心に講義形式で学習する。				
〔 授業の概要 〕 身体障害領域における評価の特色について概説し、臨床において遭遇する機会の多いことが予想される 運動機能に関する検査測定、神経機能に関する検査測定、内臓機能のうち、呼吸機能・循環機能、栄養状態に関する検査・測定を取り上げて、その評価について知識を学ぶ。さらに近年進歩が著しく、身体障害系作業療法との関連性も深まってきた各種の画像による評価技法にも触れる。				
キーワード： ボトムアップ、トップダウン、直接的評価法、数値評価、画像評価				
〔 授業計画 〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	4/11	身体障害における評価の特色	オリエンテーション、観察、面接等	松尾真輔
第 2 回	4/11	身体における物理量の測定	形態測定からの評価技法と問題点	松尾真輔
第 3 回	4/18	身体機能の検査 (領域共通)	ROM、筋力検査、知覚検査など	松尾真輔
第 4 回	4/18	身体機能の検査 (領域共通)	反射検査、姿勢反射、筋緊張など	松尾真輔
第 5 回	4/25	身体機能評価法	脳血管障害の評価	須藤崇行
第 6 回	4/25	身体機能評価法	脊髄損傷の評価	須藤崇行
第 7 回	5/2	身体機能評価法	関節リウマチの評価	須藤崇行
第 8 回	5/2	身体機能評価法	パーキンソン病の評価	須藤崇行
履修条件	特になし。			
予習・復習	既に 1 年生で講義した作業療法評価学総論について復習し、新規の知識の獲得・確認を行うこと。			
テキスト	標準作業療法学 作業療法評価学 改訂第 4 版 能登真一編 医歯薬出版			
参考書・参考資料等	指定しない。実習の中で適宜、紹介する。			
学生に対する評価	筆記試験 (50%)、課題 (25%)、日常の学習態度 (25%) により総合的に評価する。			

授業 科目名	身体作業療法評価学実習 Assessment & valuation for physical Occupational Therapy Practice	履修年次： 必修：作2年	単位数： 1単位 45時間	担当教員名： 科目責任者 松尾真輔 (仁戸名研究室6) 須藤崇行、成田悠哉	
		実務経験のある教員による授業科目			コード：ROP202
		〔DP〕 実践に必要な知識			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 この後に行われる予定の臨床実習、及び、卒後の臨床実践に鑑み、ボトムアップの観点から身体障害領域における特徴を踏まえ、客観的な評価技法を習得できるように、必要とされる知識と手技を2時間連続の実習形式で体験的に学習する。					
〔授業の概要〕 身体障害領域における評価の特色について概説し、運動機能に関する検査測定、神経機能に関する検査測定、上肢機能に関する検査測定、を取り上げて、その評価について知識を学ぶ。実践的な評価技法にも触れる。					
キーワード：標準予防策、ボトムアップ、直接的評価法、バイタルサイン、数値評価					
〔授業計画〕					
回数	日付	テーマ	内容	担当	
第1回	5/9	評価に着手する前の臨床作法	オリエンテーション、標準予防策	松尾・須藤・成田	
第2回	5/9	身体における物理量の測定	バイタルサイン：測定と検査	松尾・須藤・成田	
第3回	5/16	形態測定	体重、身長、周径などの測定	松尾・須藤・成田	
第4回	5/16	機能測定	関節可動域測定（上肢）	松尾・須藤・成田	
第5回	5/23	機能測定	関節可動域測定（上肢）	松尾・須藤・成田	
第6回	5/23	機能測定	関節可動域測定（下肢）	松尾・須藤・成田	
第7回	6/6	機能測定	関節可動域測定（下肢）	松尾・須藤・成田	
第8回	6/6	機能測定	関節可動域測定（確認）	松尾・須藤・成田	
第9回	6/20	機能測定	筋力測定	松尾・須藤・成田	
第10回	6/20	機能測定	徒手筋力検査（上肢）	松尾・須藤・成田	
第11回	6/27	機能測定	徒手筋力検査（上肢）	松尾・須藤・成田	
第12回	6/27	機能測定	徒手筋力検査（下肢）	松尾・須藤・成田	
第13回	7/4	機能測定	徒手筋力検査（下肢）	松尾・須藤・成田	
第14回	7/4	機能測定	徒手筋力検査（確認）	松尾・須藤・成田	
第15回	7/11	機能測定	感覚検査	松尾・須藤・成田	
第16回	7/11	機能測定	感覚検査	松尾・須藤・成田	
第17回	7/18	機能測定	反射検査・筋緊張・協調性	松尾・須藤・成田	
第18回	7/18	機能測定	反射検査・筋緊張・協調性	松尾・須藤・成田	
第19回	10/10	機能測定	上肢機能検査（STEF, MFT, etc.）	松尾・須藤・成田	
第20回	10/10	機能測定	上肢機能検査（STEF, MFT, etc.）	松尾・須藤・成田	
第21回	10/24	機能測定	実践的な評価	松尾・須藤・成田	
第22回	10/24	機能測定	実践的な評価	松尾・須藤・成田	
第23回	11/7	まとめ	機能測定のまとめ	松尾・須藤・成田	
履修条件	特になし。				
予習・復習	テーマごとに確認作業を行いながら実習を進行していく。				
テキスト	各講師より適宜、提示する。				
参考書・参考資料等	指定しない。実習の中で適宜、紹介する。				
学生に対する評価	実技試験（70%） 課題（20%） 日常の学習態度（10%）により総合的に評価する。				

授業科目名	身体作業療法学 Occupational therapy for physical function	履修年次： 必修：作2年	単位数： 2単位 30時間	担当教員名： 須藤崇行 (研究室：仁戸名東校舎2F)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .実践に必要な知識, .健康づくりの実践, .健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・脳血管障害、頭部外傷、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の臨床像、評価、作業療法が理解できる。また、身体的・精神的な機能障害から患者に起こりうるADLでの活動制限や、参加制約を作業療法計画の立案に反映していく流れを理解できる。				
〔授業の概要〕 作業療法の対象とする障害で、ICFによる心身機能と構造のうち、運動・感覚と知覚に含まれる障害への作業療法の治療的な介入方法について知識を習得する。本科目は、講義形式により、運動・感覚と知覚のうち中枢神経系疾患に起因する障害、変性疾患等に起因する障害に対する作業療法の実際を、活動や参加、さまざまな個人因子や環境因子と関連付けながら、作業療法で提供しているプログラムの理解を図る。 キーワード：中枢疾患、神経変性疾患、ADL、介入方法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/1	脳血管障害1	脳血管障害の臨床像1	
第2回	10/1	脳血管障害2	脳血管障害の臨床像2	
第3回	10/8	脳血管障害3	脳血管障害の評価1(小テスト) テスト2)も持参のこと。	
第4回	10/8	脳血管障害4	脳血管障害の評価	
第5回	10/22	脳血管障害5	脳血管障害の作業療法1(小テスト)	
第6回	10/22	脳血管障害6	脳血管障害の作業療法2	
第7回	10/29	頭部外傷	頭部外傷の作業療法1(小テスト)	
第8回	10/29	〃	頭部外傷の作業療法2	
第9回	11/5	パーキンソン病	パーキンソン病の作業療法1 (小テスト)	
第10回	11/5	〃	パーキンソン病の作業療法2	
第11回	11/12	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の作業療法1 (小テスト)	
第12回	11/12	〃	脊髄小脳変性症の作業療法2	
第13回	11/19	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の作業療法1 (小テスト)	
第14回	11/19	〃	筋萎縮性側索硬化症の作業療法2	
第15回	11/26	まとめ	全体を通したまとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	講義の初めに、前回の内容について小テストを行うため復習をしておくこと。			
テキスト	1) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 2) 脳卒中の機能評価 SIASとFIM 基礎編			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	期末試験(60%) 小テスト・課題(30%) 授業態度(10%)			

授業科目名	身体作業療法学 Occupational therapy for physical function	履修年次： 必修：作2年	単位数： 2単位30時間	担当教員名： 科目責任者 松尾真輔(研究室：研究棟) 高浜功丞、保田由美子、大瀬律子、奥山絵美(非常勤講師)(全員作業療法士)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 . 実践に必要な知識, . 健康づくりの実践, . 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄損傷(頸部の脊髄障害含む)の臨床像、評価、作業療法が理解できる。 ・ 関節リウマチの臨床像、評価、作業療法が理解できる。 ・ 手外科の臨床像、評価、作業療法が理解できる。 ・ 肩周囲の障害、大腿骨頸部骨折の臨床像、評価、作業療法が理解できる。 ・ 熱傷、がんの臨床像、評価、作業療法が理解できる。 				
〔授業の概要〕				
<p>本科目は、講義形式により運動・感覚と知覚のうち整形外科系疾患に起因する障害、熱傷、がんの障害に対する作業療法の実際の作業療法計画の内容を中心として、活動や参加、さまざまな個人因子や環境因子と関連付けながら、作業療法で提供しているプログラムの理解を図る。(本授業はオムニバス方式により行い、作業療法士の実務経験により、脊髄損傷については松尾と高浜が、関節リウマチと手外科については保田が、脊髄障害と骨折については大瀬が、がんについては奥山が担当を行う。)</p>				
キーワード：脊髄損傷、手外科、関節リウマチ、骨折、内部障害(呼吸循環、糖尿病)				
〔授業計画〕 1/7の分は12/17の限に振り替えます。				
回数	日付○限	テーマ	内容	担当者
第1回	12/3	脊髄損傷1	オリエンテーション、脊髄損傷の臨床像	松尾
第2回	12/3	脊髄損傷2	脊髄損傷の臨床像(続き)	"
第3回	12/10	脊髄損傷3	脊髄損傷の評価	高浜
第4回	12/10	脊髄損傷4	脊髄損傷の作業療法	"
第5回	12/17	手外科1	手外科の評価	保田
第6回	12/17	手外科2	手外科の臨床像、作業療法 (骨折、腱損傷(屈筋・伸筋)、末梢神経損傷、腕神経叢麻痺など)	"
第7回	12/17	手外科3	手外科の作業療法の実際(発達OTと交換)	"
第8回	1/7	熱傷	熱傷の臨床像、評価、作業療法(限は発達OT)	松尾
第9回	1/14	関節リウマチ1	関節リウマチの臨床像	保田
第10回	1/14	関節リウマチ2	関節リウマチの評価・作業療法	"
第11回	1/21	頸部の脊髄障害	頸椎症性脊髄症、OPLL、脊柱管狭窄症	大瀬
第12回	1/21	肩周囲の障害に対する作業療法の基礎	上腕骨近位部骨折、腱板損傷の臨床像、評価、作業療法	"
第13回	1/28	高齢者に多い下肢骨折、椎体骨折	大腿骨頸部骨折、椎体骨折の臨床像、評価、作業療法	"
第14回	2/4	がん1	がんリハビリテーション ~ 予防的・回復的リハビリテーション	奥山
第15回	2/4	がん2	がんリハビリテーション ~ 維持的・緩和的リハビリテーション	"
履修条件	特になし			
予習・復習	講義の都度に資料の整理に努め、内容の確認を行うこと。			
テキスト	1) 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 日本OT協会 2) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 常にテキスト1)2)を持参してください。			
参考書・参考資料等	ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 南山堂 理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版株式会社 その他、授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	期末試験(70%)、課題(20%)、授業態度(10%)			